



第二小学校植物園の上に輝くリング

金環日食観測イベントを通じて

平成二十四年五月二十一日早朝、私たちは第二小学校の校庭に集まった。目的はもちろん、今から始まるうとしている金環日食だ。この貴重な天文ショーを第二小学校の子供たちとその両親・ご家族に体験してもらおうというのである。目的はもうひとつある。それは、このイベントを通じて、まちづくり協議会の存在を地域住民の皆さんに知っていたただくことである。

ち走り回った。

日食は、太陽が昇り始めてすぐに始まる。スタッフが集まった頃にはすでに一部がかけはじめており、子どもたちが集まりはじめた午前七時前になるともう太陽はすでに三日月の形になっていた。

子どもたちがほぼ校庭に到着した時点で、日食観測のための注意を先生からしっかりと行なっていた。そして、好きな場所で太陽を眺めてもらう。

子どもたちが校庭にひろがり、皆がいつせいに太陽にグラスを向ける。

「わあ、三日月みたいや」

「隠しとるのは月やに」

「知っとるわ、そんなこと！」

わいわいがやがや、なんと賑やかなことだろうか。

午前七時三十分、いよいよ待ちにまつた金環日食のはじまりだ。天空に黄金のリングが出現した瞬間、校庭に子どもたちの歓声が上がった。

「すい、すい」

「すい、すい」

「きれいー」

そしてため息…。

太陽は、雲に隠されたり、顔を出したり。雲が日食メガネの役割をしてくれているときは、肉眼でも周りの風景といっしょにこの神秘的なリングを楽しむことが



できる。太陽と月、そして地球上の私たちが一直線になっていなければこの光景は無い。宇宙のスケールを体感として感じ取れる瞬間だ。子どもたちの心には、きつと一生の思い出が残ったことだろう。

午前七時三十五分が過ぎ、リングの一端が切れはじめた。いよいよ月が太陽面を離れ、天文ショーが終わろうとしている。

この後子どもたちには普段と同じような学校生活がはじまる。私たちは、用意していたおにぎりを配り、美味しそうに食べている子どもたちの姿をみながら役目を終えた。

この日食観測会の意義はなんであつたらう。先にも記したように日食は、光源である太陽とそれを隠す月、そしてその影を映す地球があつてはじめて成り立つ出来事だ。普段の生活では感じる事ができない宇宙を誰もが体感することができる。これからの宇宙時代を生きていく子どもたちにとって、この体験は、ものの感じ方、考え方に少なからず影響を与えることだろう。その意味で第二地区まちづくり協議会の初イベントとしてたいへん有意義なものになったのではないかと考える。

最後にこの観測会に惜しめない協力をお願いしたい。いただいた第二小学校の関係者、PTAの皆さん、そして日食観測会の共同開催の申し出に快く応えていただいた東地区住民協議会の皆さんに心から感謝申し上げます。



福祉・健康部会より

福祉・健康部会では、去る七月五日に「社会福祉法人キングスガーデン三重」が経営する大紀町と大台町にある高齢者総合福祉施設の視察研修を行いました。

こうした特別養護老人ホームなどの高齢者福祉施設の視察研修は、高齢者の介護や施設入所などについてご相談を受けた時などに適切に対応ができるように福祉・健康部会の委員と民生児童委員の方々と、毎年実施しています。

このほかにも、高齢者向け養成講座として、五月十七日には「エンディングノートの活用について」、六月七日には「歯つらつ体操」を開催しました。



大台共生園での説明風景

防犯・防災部会より



防犯・防災部会では、これまでに三回にわたって委員会を開催し、東日本大震災をきっかけのない教訓と捉え、当地域のハザードマップの作成を試みるほか、いくつかの自治会の連携による自主防災隊の編成についても検討をはじめとしています。また防犯灯の新設や、既設の防犯灯のLEDへの取り替えなどについても今後計画的に進めようとしています。

クラブ紹介

これから「ふるさと風だより」の発行毎に、第二公民館を舞台に活発に展開されているクラブ活動を紹介させていただきます。

第一回の今回は「さくら会」を紹介いたします。さくら会は、平成五年に民舞、新舞踊などを楽しむために結成され、現在十二名の会員が活動しています。地域の老人施設等への慰問活動は年十回以上は行っています。



さくら会練習風景

第二地区まちづくり協議会の活動が スタートしました。

ご挨拶

会長 松本 守



昨年の12月4日に設立されました第二地区まちづくり協議会は、松阪市の中心市街地の一角に、12の自治会の地域で構成されました。

商業地と住宅地が混在する当協議会の地域は、面積はさほど広くはありませんが、公民館活動は活発で、様々なサークルが自治会の枠を超えて、豊かな交流を重ねています。

わたしたちは、このかけがえのない生活空間を、人口の高齢化や少子化が地域の活力を失わせないように気を配りつつ、お互いが顔見知りというつながりを広めながら、深めながら、より安全で安心な、いつもやさしい風が吹きわたっているような生活空間にしていきたいと思います。

そして、将来を展望しつつ、この町で生まれ、この町で育った人が、この町で暮らしたい、この町に帰って来たいと願えるような、そのようなふるさとづくりをめざします。

第二地区まちづくり協議会 組織図

